

平成27年度  
(通算第4回)

初年次教育部門〈全学日本語教育〉

# 教育実践・研究発表会

本学では平成22年度から、大学における学修の基盤となる日本語運用力を身につけるため、複数の日本語表現科目を開講しています。このうち、「日本語表現T1」(1年前期開講)は、本学の〈基幹科目〉のひとつに位置づけられ、全学部学生が受講しています。

このたび初年次教育部門〈全学日本語教育〉は、上記科目を核となすライティング指導と、各学部・学科の導入教育ならびに初年次教育との連携に資することを目的とした「教育実践・研究発表会」を開催します。本学学生の日本語運用力や論理的思考力を伸ばすために、いまどのような指導が求められているのか、問題意識を共有する場になれば幸いです。

お気軽に会場まで足をお運び下さい。

日時

平成28年2月22日(月)

第1部 / 14:00~14:40

第2部 / 14:45~15:45

会場

K1 会議室

長久手キャンパス研究棟 2階

## 第1部 研究助成(特別教育研究)採択事業報告会

「対話」を重視する全学的ライティング支援の試み  
—「ライティングサポートデスク」における学修支援の成果と課題—

[報告者] 初年次教育部門准教授 外山 敦子

## 第2部 教育実践・研究発表会

初年次学生の文章に見られる情報認識の  
ありかたと「カテゴリー」意識の欠落

[発表者] 初年次教育部門講師 荒木 弘子

スマートフォンを使用した授業実践の報告  
—自己の客観視から発表態度を省みる試み—

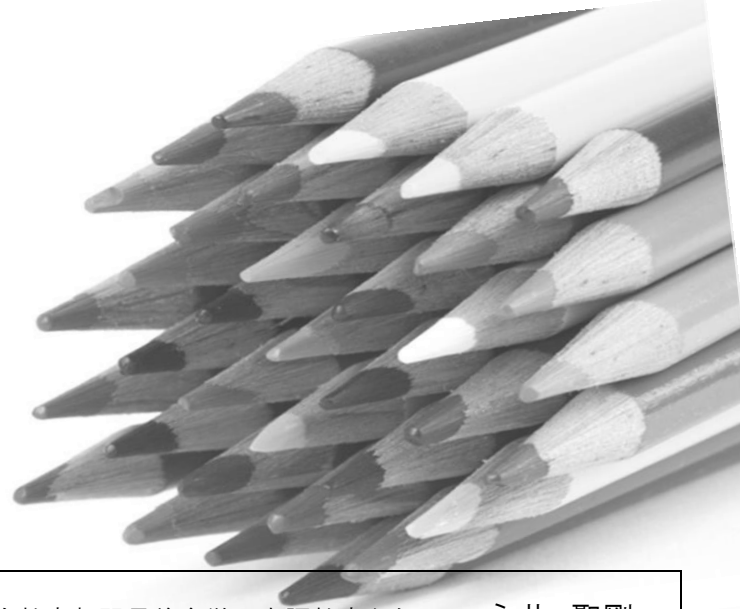
[発表者] 初年次教育部門講師 石田 莉奈

\*発表会終了後、情報交換会(茶話会)を予定しています。

## 問い合わせ先

初年次教育部門 担当：外山敦子  
内線 2321 / atoyama@asu.aasa.ac.jp

# プログラム及び発表概要



14:00	主催者あいさつ 初年次教育部門長兼全学日本語教育主任 永井 聖剛
<b>第1部 研究助成(特別教育研究)採択事業報告会</b>	
14:05	<b>「対話」を重視する全学的ライティング支援の試み</b> —「ライティングサポートデスク」における学修支援の成果と課題— 初年次教育部門准教授 外山 敦子
14:40	<b>【概要】</b> 本報告は、平成 26 年度研究助成(特別教育研究)採択事業「対話」を重視する「全学的ライティング支援」の実践的研究(初年次教育部門(全学日本語教育)、研究代表:永井聖剛(全学日本語教育主任)、平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月)における研究成果の一部である。具体的には、ライティング支援の拠点として試験的に開室した「ライティングサポートデスク」の理念、支援のしくみと内容、開室実績、成果および課題などを整理し、報告する。
<b>第2部 教育実践・研究発表会</b>	
14:45	<b>初年次学生の文章に見られる情報認識のありかたと「カテゴリー」意識の欠落</b> 初年次教育部門講師 荒木 弘子
15:15	<b>【概要】</b> 初年次学生の執筆する小論文やレポートには、個別の事実や意見を羅列するのみで、それらの整理・分類・関連付けの作業を怠っているように見えるものが散見される。本発表では、その背景に、個々の情報を「カテゴリー」内に位置づけ正確に認識しようという意識の欠如があることを指摘し、今後の対策を考える。
15:15	<b>スマートフォンを使用した授業実践の報告</b> —自己の客観視から発表態度を省みる試み— 初年次教育部門講師 石田 莉奈
15:45	<b>【概要】</b> 「日本語表現 T2」において課される 15 分間の口述発表では、話し方や発表態度などの口述表現に対する評価ポイントがある。学生各々に話し方や発表態度を注意させるためには、自身が話す姿を客観視させることが効果的であるだろう。しかし、授業時間内において学生全員が話し、撮影される機会を得るためには、ある程度の撮影機器の数が必要である。 そこで、発表者が担当する選択クラス(人情・スポ健/18 名)の第8回目授業では、学生の所持率が高いスマートフォンを用いて個人が話す様子を撮影した。そして、動画を見返すことにより自己を客観視する機会を設けた。その結果、学生は自身の話し方の癖や弱点に気付き、改善のための方法を考えた上で本番発表に臨むことができた。本発表ではその授業の成果を報告する。
15:50 ～	<b>情報交換会(茶話会)</b>

※ 発表資料のみご入用の方は、外山敦子(内線 2321/atoyama@asu.aasa.ac.jp)までご連絡ください。